

## 歯科診療現場での医療ICTの現状と貢献と普及と課題

森本 徳明<sup>\*1 \*2</sup>

\*1 矯正歯科森本、\*2 歯科・口腔医療情報における交換・連携に関する研究会

### Current Status, Contributions, Dissemination, and Issues of Medical ICT in Dental Practice

Noriaki Morimoto<sup>\*1 \*2</sup>

\*1 Morimoto Orthodontic Office, \*2 Study group on exchange and cooperation in dental and oral medical information

#### Abstract

The fiscal 2022 medical insurance revisions also indicated a direction to further promote medical collaboration.

In this study group, we have repeatedly discussed the medical cooperation of dentistry. However, in dentistry, there are many private practitioners, and the understanding of medical ICT is low, and the infrastructure for information exchange has not been developed.

Based on the theme of this conference, "The role of medical information as a social infrastructure," this time we will return to the starting point and reconfirm the current state of electronic medical records in dentistry.

Next, based on the current situation of uneven distribution of dental care, we would like to hear about the possibilities of medical information systems.

In addition, she will talk about what can be learned from dental receipt data, and the possibilities brought about by the digitization of medical information through the contribution of ICT to dental care.

Finally, I would like you to talk about what direction the government and the Japan Dental Association are trying to lead dental clinics in light of this.

Based on these four items, we planned a symposium to summarize the current situation, possibilities, and issues regarding the introduction of dental medical information, which has been delayed.

**Keywords:** dental practice, medical cooperation, standardization

#### 1. 緒言

令和4年度保険改定でも、医療連携をさらに推進する方向性が示されている。本研究会では、歯科の医療連携を中心に議論を重ねてきた。しかし、歯科においては情報発信のキーを握っている個人開業医が、医療ICTに対する理解が少なく、メリットを感じられず、設備投資がなされず、導入が進まないため、情報交換の基盤が整備されていない、本大会のテーマ「社会基盤としての医療情報の役割」も踏まえ、今回は原点に戻り、歯科の電子カルテの現状を再確認し、また、歯科医療の偏在の現状を踏まえ、たうえて医療情報システムの可能性を提示し、さらに、歯科のレセプトデータにより何がわかるかという歯科医療に対するICTの貢献を通じて医療情報が電子化されることによってもたらせる可能性についてそれぞれの分野の方よりお話しただく。

最後に、このようなことをふまえて国や日本歯科医師会は、どのような方向に歯科医院を導こうとしているのかということをお話しいただき、この4つの項目を軸に、遅れている歯科の医療情報の導入に対して、現状把握と可能性と課題をまとめるシンポジウムを企画した。

#### 2. 歯科の課題研究会の歴史<sup>1)</sup>

1995年第15回日本医療情報学連合大会が名古屋で開催されたときに、大学病院において、歯科の病院情報システムに携わるメンバーが集まり、「歯学部・歯科大学附属病院の病院情報システムを考える」と題した歯科のワークショップが開催された。翌年1996年に、日本医療情報学会分科会のひとつとして、玉川裕夫を代表幹事とし、大学病院の歯科病院情報システムの問題を扱う「大学附属歯科病院情報処理研究

会」が発足した。5年間の活動期間中に、対外的には「JIS 拡張領域への歯科用特殊記号登録申請案作成」、「2バイト情報交換用漢文字符 拡張集合への登録申請書(案)」等を行い、その成果として、歯科特有のフォントが新JIS文字として登録された。本学会では「歯科の病院情報システムでの携帯端末利用を考える」(1996)、「歯科用図形文字の標準化」(1997)、「歯科病院情報システムの現状と今後の課題」(1999)、「歯科領域の標準化ー新たな一歩をここからー」(2000)と題した発表、ワークショップを開催した。

この時期は、国立系の大学病院にオーダリングシステムの導入の予算が付き、各大学で歯科病院情報システムの開発が進められていた。また、その時に歯式を表記する文字フォントがないということ、JISの文字フォントの拡張を行うタイミングが重なり、本研究会で申請を行い登録されることになった。

2001年より、歯科病院情報システムだけでなく、レセプトの電子請求への流れに対応して歯科医療情報システムの標準化を目指し、同じく玉川裕夫を代表幹事とし日本医療情報学会課題研究会「歯科分野における保健医療福祉情報の標準化に関する研究会」が発足した。

5年間の活動では、日本歯科医療管理学会において「情報化に関する歯科を取り巻く状況について」(2001)と題するワークショップ、本学会において「口腔領域の医療情報電子化はここまで来たー診療録の電子化と保険請求業務の電子化ー」(2001)、「歯科の標準化の方向と進捗状況について」(2002)、「歯科システムの新しい実装を考える」(2003)、「歯科分野における保健医療福祉情報の標準化の総括と今後の展望」(2004)、「歯科分野の保健福祉医療情報の標準化に

関する現状と展望」(2005)と題したシンポジウムを開催した。

保険請求事務を電子化するということが、国の方針と示され、MEDISの標準化委員会に歯科の委員会が齊藤孝親委員長のもとに組織され、本研究会より複数の委員が参加し、歯科標準病名の標準化、歯式コードの標準化について作業を行った時期である。

この標準化の流れをもとに、その後の活動は歯科の医療情報を、システム間、遠隔医療を含め多職種で共有できる医療連携、また、蓄積された歯科の医療情報をいかに活用するかを検討することを活動の主目的としている。

2006年より3年間、代表幹事が森本徳明に代わり、日本医療情報学会課題研究会「歯科医療分野における情報交換に関する研究会」が発足した。

本学会で「歯科情報システムの今後」(2006)、「歯科病院情報システムの現状と今後」(2007)、「歯科において病院情報システムはどのように貢献できるか」(2008)、「歯科の医療政策と医療電子化の接点(日本歯科医療管理学会、日本歯科放射線学会との共同企画)」(2008)と題したシンポジウムを開催した。

2009年よりの3年間は、同じく代表幹事を森本徳明にし、「歯科医療機関間の情報交換仕様に関する研究会」で活動を行った。

本学会で、「社会環境の変化に対応する医療情報技術(日本歯科医療管理学会との共同企画)」(2009)、「今までの歯科システムは歯科医療に貢献できたか、これからの歯科システムになにが求められるか」(2009)、「歯科用放射線画像ビューアと標準化について(日本歯科放射線学会との共同企画)」(2010)、「歯科情報システムの部門間・施設間・世代間連携を考える」(2010)、「歯科の診療録電子交換に必要な歯周検査結果の標準化について(日本歯周病学会との共同企画)」(2011)、「歯科病院システムに蓄えられたデータはどのように活用されているか」(2011)と題したシンポジウムを行った。

2012年よりの3年間は、引き続き代表幹事を森本徳明にし、「歯科医療分野における情報交換に関する研究会」で活動を行った。

本学会で、「歯科診療に関する標準化の現状についてー在宅診療から医科歯科連携まで(日本歯科医療管理学会、MEDISとの共同企画)」(2012)、「歯科における医療連携の現状と課題」(2012)、「歯科における情報連携の現状と未来への一步」(2013)、「災害時対応を前提に口腔領域の診療録から抽出しておくべき情報は何か?(日本法歯科学会、日本歯科医療管理学会との共同企画)」(2013)、「初診時の口腔診査情報に関する標準交換規約のあり方(日本歯科医療管理学会との共同企画)」(2014)、「歯科における医療連携」(2014)と題したシンポジウムを行った。

2015年よりの3年間は、引き続き代表幹事を森本徳明にし、名称を「歯科医療情報における交換・連携に関する研究会」とし、活動を行った。

連合大会にて、「歯科における医療連携とそれにかかわる個人情報保護と共通ID」(2015)、「口腔診査情報の標準交換規約具体案について(日本歯科医療管理学会との共同企画)」(2015)、「口腔診査情報の標準交換規約ー実装時の課題と展望ー(日本歯科医療管理学会との共同企画)」(2016)、「地域包括ケア時代に歯科の情報連携はどうあるべきか」(2016)、「地域包括ケア時代の多職種連携に必要な歯科情報とは(日本歯科医療管理学会との共同企画)」(2017)、「地域包括ケア時代に歯科の情報連携はどうあるべきか」

(2017)と題したシンポジウムを行った。

2018年よりの3年間は、学会評議員である玉川裕夫を代表幹事とし、名称は引き続き「歯科医療情報における交換・連携に関する研究会」とし、活動を行った。

連合大会にて、「歯科診療現場での医療 ICT の貢献と普及と課題」(2018)、「口腔診査情報標準コード仕様を使ったデータ利活用の課題(日本歯科医療管理学会との共同企画)」(2018)、「歯科における医療連携と医療情報の利活用」(2019)、「歯科医療の変曲点で我々はなにをなすべきか」(2020)と題したシンポジウムを行った。

特筆すべきは、厚生労働省の標準規格に、日本歯科医師会の「口腔診査情報標準コード仕様」が作られたことであろう。

本年3月18日より3年間、新しい世代への引継ぎを行い、学会評議員野崎一徳を代表幹事とし、「歯科・口腔医療情報における交換・連携に関する研究会」として活動を行っている。

今回、今まで積み上げてきた内容を踏まえ、歯科の医療情報の現状の把握と、歯科・口腔医療情報を新しい交換規約に対応させていく試みを、このセッションと「口腔・歯科領域の医療情報プラットフォームの構築」の2つのセッションを企画した。

### 3. 本シンポジウムについて

本シンポジウムを企画するにあたり、4つのテーマを各演者をお願いして、話題提供をいただく形とした。最後に、参加されたかたと、理解を深めるための総合討論を行う予定です。

#### 3.1 歯科の電子カルテに関する現状と将来像

九州歯科大学の守下昌輝先生より、歯科大学病院から考える、歯科における医療 ICT の課題と展望というタイトルで、歯科大学病院での歯科電子カルテの状況と、データの二次利用の状況を紹介し、本院の院外に向けての課題となる医療 ICT のオン資、電子処方箋、オンライン診療、PHR について触れ、歯科診療所の現状を踏まえて、歯科の電子カルテの未来像についてお話しいただく予定です。

#### 3.2 北海道の歯科医療提供体制の現状

歯科医師であり、北海道保健福祉部健康安全局地域保健課の永井伯弥先生より、北海道の歯科医療提供体制(遠隔医療、医療情報の利用に臨むこと)と地域の健康づくり推進のための情報利用について、北海道における現状と課題、今後の方針等を交えつつお話しいただく予定です。

#### 3.3 疫学研究に使用される歯科医療関連の政府統計やレセプトデータについて

国立保健医療科学院の竹田飛鳥先生より、データ活用の視点で、疫学研究に使用されている歯科医療関連の政府統計やレセプトデータについてご紹介するとともに、こんなデータがあったらいいなという希望も含めてお話しいただく予定です。

#### 3.4 日本歯科医師会の取り組みについて

日本歯科医師会常務理事の宇佐美伸治先生より、国の方針として行われるオンライン資格確認、データヘルス改革(医療ネットワークや電子カルテなど)への対応などについて日本歯科医師会の立場よりお話しいただく予定です。

### 4 参考文献

- 1) Dental Hospital Information System Forum(歯科医療情報処理課題研究会), 2003.  
[<http://www.dhis.info/> (cited 2022-Aug-31)].